

臨時塩需供給対策協議会編

自昭和二十二年  
至昭和二十五年 塩需供給計画

昭和二十二年六月六日

(E.S.B)

裏  
面  
白  
紙

目 次

	頁
1. 年次別需給計画 .....	1
2. 外塩輸入計画 .....	2
3. 国内塩生産計画 .....	3
石炭製塩年次別生産算出基礎 .....	4
製塩工場効率改善案 .....	5
改善後の年次別製塩方法別 生産能力表 .....	7
4. 一人月 NaCl 攝取量 .....	8
5. 塩所要量 .....	12
6. 工業用年所要量 .....	13
7. 食料用所要量 .....	17

裏  
面  
白  
紙

# 1. 年次別需給計画

(単位 吨)

(E.S.B)  
(22.6.6)

年次	需要量		欠減	在庫 増加量	所 要 量 計	國 産 内 産	輸入 量	計
	工業用	食料用						
22年度	270,000	906,420	58,560	150,000	1,385,000	369,000	1,016,000	1,385,000
23 "	350,000	1,105,609	72,391	100,000	1,428,000	561,000	1,067,000	1,428,000
24 "	450,000	1,257,222	54,778	100,000	1,552,000	614,000	1,278,000	1,552,000
25 "	610,000	1,448,348	102,452		2,111,000	702,000	1,459,000	2,111,000

- 備考 1. 欠減は需要量の約5%を計上した。
2. 在庫は23年度以降需要量の約<sup>24日</sup>~~24~~日相当額の保有を目標とし、23年度か  
ら24年度まで毎年<sup>10万</sup>~~10~~万<sub>15万</sub>の増加を見込んだ。

裏  
面  
白  
紙

2. 外産輸入計画

単位 千噸

産 地	22年度	23年度	24年度	25年度	備 考
一 計	200	250	300	300	
北 支	60	110	150	150	
弓 湾	140	140	150	150	
遠 海 産 計	600	650	650	650	
紅海地区	300	350	350	350	1979年~1984年平均 362千噸
地中海地区	250	250	250	250	240千噸
アセチレン 西印度島	50	50	50	50	
其 他	216	167	328	507	
合 計	1016	1067	1278	1459	

裏面白紙

### 3. 国内塩生産計画

区分 \ 年度	昭和22年	23	24	25
石炭(亜炭を含む)製塩	255 <sup>千t</sup>	403	456	544
石炭量	250	350	400	480
亜炭量	70	100	100	100
電気製塩	98	138	138	138
電力量	6 <sup>億kWh</sup>	10	10	10
温泉熱製塩その他	16	20	20	20
塩生産高計	369	561	614	702

備考 1. 石炭(亜炭を含む)製塩量は経済安定本部の年次別製塩用配炭計画案を基礎とし、且つ附表2. 製塩工場効率改善案により煎熱設備を改造して燃料の節

約を図ることとし附表1. の通算出した。

2. 電気製塩については電力事情を勘案して 二億KWH を基礎として算出した。
3. 本計画によるときは製塩施設に相当の余力をまざるので薪による製塩につき  
自給製塩制度の存否及び減水の使用可能量と睨み合せ考慮すること。

参考

	22年度	23年度	24年度	25年度
製塩化不能減水量	1,123,000 <sup>升</sup>	1,140,000 <sup>升</sup>	209,000 <sup>升</sup>	422,000 <sup>升</sup>
同上に対処薪所要量	553,000 <sup>キ</sup>	561,000 <sup>キ</sup>	420,000 <sup>キ</sup>	200,000 <sup>キ</sup>

石灰製造(電氣併用を含む)年次別生産量算出基礎

附表 1.

年次別	噸計區	區		真正式	燒/應 量	燒/應 率	蒸/應 量	蒸/應 率	蒸/應 量	蒸/應 率	平釜式	蒸/應 量	蒸/應 率	計	蒸/應 量	蒸/應 率
		石	亞													
昭和 22	石炭	250,000		82,254							25,669			275,669		
	亞炭	70,000		24,274							7,186			77,160		
	計	320,000		106,528							32,855			352,383		
				電氣による製造量	116,590	98		1.4			17,35			133,940	1.25	
昭和 23	石炭	350,000		103,370							18,50			368,500		
	亞炭	100,000		24,275							0			124,275		
	計	450,000		127,645							18,50			576,145		
				電氣による製造量	43,920	98		1.45			560			48,480	1.12	
昭和 24	石炭	440,000		266,125							0			446,125		
	亞炭	100,000		64,527							0			170,652		
	計	540,000		330,652							0			517,177		
				電氣による製造量	43,920	98		1.45			560			48,480	1.12	
昭和 25	石炭	450,000		352,820							0			452,820		
	亞炭	100,000		24,275							0			126,545		
	計	550,000		377,095							0			578,640		
				電氣による製造量	43,920	98		1.45			560			48,480	1.12	

(四) 電氣製造(轉政事業製造分のみを含む)年次別生産量算出基礎

昭和22年度	51,420
" 23 "	91,420
" 24 "	91,420
" 25 "	91,420

裏面白紙

附表 2

製塩工場効率改善案

予定工場名	塩田面積	生産能力	現在製法方式	改善方式	現在製法方式 生産能力	改善後 生産能力	改善 年度
西灘塩業組合	87.5	5,200	平釜式及蒸 汽利用式	真空式	12,274	6,560	昭和3年
竹原	64.3	5,200	"	"	8,762	4,540	"
西浦	65.6	5,650	平釜式	"	12,156	5,280	"
坂出	155.5	21,900	平釜式及蒸 汽利用式	"	32,764	19,720	"
記間	122.1	15,200	"	"	21,342	12,140	"
生島	56.2	4,000	"	蒸気利用式	6,024	4,500	"
草池	2.9	800	平釜式	"	1,232	100	"
帖佐町	52.0	3,100	"	"	3,204	2,520	"
塩津塩業組合	20.3	1,100	"	"	3,104	1,720	"



東名製塩株式会社	29.8	7,600	平釜式	蒸汽利用式	11,504	9,120	昭和23年
小計(10)	642.8	74,400			107,847	65,760	
塩野塩業組合	85.6	3,900	平釜式及蒸汽利用式	真空式	12,615	9,120	昭和24年
大塩	229.0	27,000	"	"	41,206	21,600	"
秋穂	109.8	10,800	蒸汽利用式	"	12,760	2,640	"
東讃	202.7	25,200	平釜式及蒸汽利用式	"	32,770	20,100	"
林田	159.8	20,600	"	"	21,140	16,480	"
乃生	35.4	4,300	"	"	6,112	3,440	"
牟禮	42.2	5,000	蒸汽利用式	"	6,000	4,000	"
和間	20.5	2,500	平釜式	蒸汽利用式	3,542	2,760	"
高家	7.3	100	"	"	924	720	"

附表 2

製塩工場効率改善案

予定工場名	塩田面積	生産能力	現在製塩方式	改善予定方式	現在製塩方式 塩生産量	改善後 塩生産量	改善年度
西灘塩業組合	87.5	3,200	平釜式 汽蒸式	真空式	12,084	6,510	昭和25年
竹原	62.3	5,800	"	"	8,962	4,140	"
西浦	65.6	2,500	平釜式	"	10,104	5,280	"
坂出	159.5	21,500	平釜式 汽蒸式	"	32,564	17,520	"
記間	167.1	15,500	"	"	21,644	12,640	"
生島	56.2	4,000	"	真空式	6,024	4,500	"
草池	27	500	平釜式	"	1,522	900	"
塩田研究所	24.8	2,100	"	"	2,234	2,320	"
塩津塩業組合	20.3	1,600	"	"	5,466	1,920	"

東名製塩株式会社	27.8	7,600	平釜式	蒸汽利用式	14,700	2,000	昭和23年
小計(10)	642.8	74,400			107,000	15,760	
幡野塩業組合	85.6	2,700	平釜式及蒸汽利用式	真空式	12,600	7,100	昭和24年
大塩	232.0	27,000	"	"	41,200	21,600	"
秋穂	169.6	10,500	蒸汽利用式	"	12,900	2,640	"
東濱	287.7	25,000	平釜式及蒸汽利用式	"	32,700	15,100	"
林田	159.8	20,600	"	"	26,140	16,400	"
乃生	35.4	4,300	"	"	6,112	3,440	"
牟禮	42.2	5,000	蒸汽利用式	"	6,000	4,000	"
和間	20.5	2,300	平釜式	蒸汽利用式	3,542	2,760	"
高家	7.3	100	"	"	924	720	"

栗敷塩業組合	29.9	1,800	平釜式	蒸気利用式	2,182	2,160	昭和24年
浪波 "	31.9	2,300	"	"	3,542	2,760	"
木太夏島 "	21.3	2,400	"	"	3,676	2,880	"
小計 (12)	89.4	111,200			152,220	92,720	
合計 (22)	1,520.2	185,600			260,598	158,680	

附表3

改善後の年次別製塩方法別生産能力表

区分	年次別	真空式		蒸汽利用式		手釜式		計	
		塩量	石炭量	塩量	石炭量	塩量	石炭量	塩量	石炭量
在東東濃	22年	173,700	132,450	126,700	152,241	197,200	703,000	1,744,000	574,200
	23年	223,000	200,500	126,300	147,300	124,800	182,700	1,000,000	574,800
	24年	322,000	257,600	119,100	173,520	19,700	119,300	500,000	505,450
	25年	423,800	339,000	73,000	84,720	14,000	23,100	500,000	445,500
鹽採東濃	22年	56,000	44,800	49,800	53,700	52,500	61,600	100,000	166,300
	23年	51,200	42,950	51,000	56,100	52,200	69,100	100,000	174,220
	24年	61,200	48,960	51,000	56,100	53,200	69,100	100,000	184,220
	25年	51,200	48,960	51,000	56,100	53,200	69,100	100,000	174,220
	計	229,100	183,200	175,900	205,940	249,200	371,200	1,744,000	900,500
計	23年	324,900	259,520	177,300	200,460	198,000	241,300	1,000,000	921,932
	24年	374,200	306,560	167,100	196,620	122,700	172,400	1,000,000	679,800
	25年	475,000	358,000	211,500	140,820	67,600	81,700	1,000,000	629,100

4. 一人一月NACL攝取量

年度	区分	基本量		味		噌		醬		油	漬物	水産物	加		配	其他	計	
		元	分	元	分	元	分	元	分				元	分				
22年	都会	200	119	150	73	2.5	77	95	50	30								428
		250	119	225	105	3.3	102	94	150	90								544
23年	都会	200	119	200	112	5.3	102	94										525
		200	119	269	140	4.1	128	141	100	60								666
24年	都会	150	90	225	121	4.2	128	119	1									550
		150	90	292	154	5.0	153	109										596
25年	都会	100	60	250	134	5.4	166	156										626
		100	60	330	196	5.8	199	234										759

備考 本件は配給塩のみを考慮した。

基本量

味噌

が割合がロスが攝取される、その55%をNACLとした。

製品100g中、氷味噌は13.5~10.8g、味噌増は15.2~14.8g

大豆 豆味噌は22.8~18.3g、増平均100gの食塩を含む。

それと従来の生産の実績によって加重平均すれば、味噌100g中には

15.3gの塩を含み、その55%がNACLであるものとして

(今後の生活の量が種類別に予定するに及ぶが出来ないので53%と仮定

した)。

が割合がロスが攝取される、その55%。

別紙

は、NACLの攝取量を可能を限り上昇せしめる目的を以て、用途は加配

都度決定するものであり、NACLの計算は基本量と同じである。

### NACLの計算方法

塩蔵並びに食塩添加工魚介類より攝取可能の塩化曹達量

	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年
内地塩物用	12,214 担	20,827 担	31,593 担	45,058 担	60,906 担
内地其の他用	10,001	12,038	13,696	15,191	11,345
南水洋捕鯨用	9,520	14,660	16,660	16,460	16,660
北	3,375	3,375	3,375	3,375	3,375
トロール用	3,444	3,404	3,404	2,463	2,403
捕鯨用	620	120	120	120	120
母船式用	-	730	700	700	730
合 計(内)	37,134	57,154	61,097	84,030	101,039
推定人口	71,150 千人	74,733 千人	74,775 千人	77,461 千人	81,644 千人
一人当りNaCl摂取量	1.31 斤	2.02 斤	2.40 斤	2.90 斤	3.42 斤
一用塩量	24.5%	28.3%	27.2%	26.4%	25.6%



算出基法

内地塩物用... 塩物用生原料 ÷ 17 = 製品数量  
 製品数量 × 6.75 = 可食部量  
 可食部量 × 6.75 = 攝取可能 NaCl 量  
 内地其の... 用塩量 × 6.75 = 攝取可能 NaCl 量  
 南水洋捕... 用塩量 × 6.75 = 攝取可能 NaCl 量

北 洋

北 洋... 塩物用生原料 × 6.75 = 可食部量  
 可食部量 × 6.75 = 攝取可能 NaCl 量  
 トロ... 塩物用生原料 × 6.75 = 可食部量  
 可食部量 × 6.75 (昭和... 25.26年) = NaCl 量  
 捕 鯨... 可食部量 ÷ 6.75 = 製品数量  
 製品数量 × 6.75 = 攝取可能 NaCl 量  
 母 船 用... 用 塩 量 × 6.75 = 攝取可能 NaCl 量

× 17 及び 6.75 を各数字は「国民食料の  
 現狀 (53頁)」によつて  
 \* \* \* 塩蔵食品。(谷川着) 4/頁  
 の表によつて  
 \*\* \* 用塩量中の NaCl 量を 85% とみな  
 「内地塩物用」 \* \* 印参照

「内地塩物用」 \* 印参照  
 「内地塩物用」 \* \* 印参照  
 「内地塩物用」 \* 印参照  
 「内地塩物用」 \* \* 印参照  
 「内地其の他用」 \* 林印参照

(補註)

- 1 用塩量 30% 以上のものは製品中の NaCl 含有量を 17% とみなす。
- 2 用塩量が 30% に達しないものは製品中の NaCl 含有量を 12% とみなす。
- 3 「内地其の他用」に用いられる塩は非食料品製造用として 10% 差引いた残りの全部が無駄なく食れるものとみなす。此の場合用塩量中の NaCl の量を 85% とする。
- 4 「北洋 母船式」に用いられる塩は罐詰製造の際使用されるものと見做し全部が無駄なく食れるものとして 10% 用塩量中の NaCl 量を 85% とする。

一人一月 kcal 攝取量

(昭和5-7年平均)

区	醬油用		味噌用		漬物用	水産用	其他用	合
	製品	kcal	製品	kcal				
都	6.4	184	25.0	112	15.5	23	52	526
原	6.5	221	32.5	146	23.2	23	52	676

- 註) 1. 食糧の kcal 含有率は85%とした。  
 2. 醬油消費量は農村においては都合の2割増とした。塩漬は5割増とした。  
 3. 味噌消費量は農村においては都合の3割増とした。塩漬は5割増とした。  
 4. 漬物用塩中には家庭調味用塩を令合。農村の一人当消費量は都合の5割増。攝取率は65%とした。  
 5. 水産用、その他用の攝取率はそれぞれ3割増及ぶとした。

5. 塩所要量

年度別	工業塩	食料塩	計	備	考
22年	270,000	906,440	1,176,440		
23年	350,000	1,105,609	1,455,609		
24年	450,000	1,257,222	1,707,222		
25年	610,000	1,448,348	2,058,348		

工業塩年次別需要量

種別	品目	単位	22	23	24	25	26	備考
工業塩	苛性ソーダ	ト	120,400	161,200	214,800	308,000	438,000	火燐、70-140g/l
	ソーダ灰	"	102,000	132,000	17,000	230,000	326,000	梁子 梁色
	其他	"	82,000	58,800	65,200	92,000	76,000	石灰、70-140 スル70g/l
	計	"	290,000	350,000	450,000	610,000	840,000	ハリス 灰石外燐化100 70-140 梁
生産	苛性ソーダ	ト	50,800	69,000	71,000	130,000	180,000	70-140 x 5-14
	ソーダ灰	"	50,000	66,000	85,000	115,000	163,000	
ソーダ灰配装			300,000	430,000	535,000	700,000	730,000	
石	生産	ト	30,000	31,000	35,000	39,000	45,000	

品名	輸出入	316	1,200	1,900	2,700	3,000
硫磺	計	30,316	32,200	36,900	41,700	48,000
安	純	1030	1,240	1,450	1,550	1,650
人絹	"	40800	54000	77000	130000	200000
紙	糊	579600	653000	762800	871120	1040320
火柴	花	282735	325580	396000	477000	605000
硝子	子箱	1200	1600	2000	2500	3500

供給力  
主要製品生産

昭和五年一九九年平均供給量

品名	單位	生産量	輸入量	供給量	備考
一ノ	花	105,057	50,000	155,057	
奇性	"	89,423	28,040	117,463	
硝子	箱	2,629,000	270,800	2,899,800	
安	花	305,000	120,000	425,000	
紙	箱	1,345,690	118,600	1,464,290	
紙	"	850,000	227,800	1,077,800	
人	"	29,980	-	29,980	
人	"	81,170	-	81,170	

昭和22年度奇性ノ一ダノ一ダノ分配当計画

旬	門別	牙性ノ一ダ	ノ一ダノ一ダ	備	秀
連	軍	200	200		
陸	運	300	200		
通	信	60			
電	力	10			
石	業	40	30		
尾	炭	30	150		
鉄	ノ一ダ	15	100		
軋	鋼	60	24		
石	煉	500			
	油				

金	業	150	60		
船	工	60	40		
機	批	500	2400		
鉄	車	30	20		
窠	業	15	14300		
	子		7300		
	他		5000		
化	料	6000	1500		
	安	6000	1500		
化	業	14155	21703		
	工		6000		
	業	800	250		
	成				

油	糖	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤
油	糖	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤	油	煤
2500	400	30	50	60	2000	2500	350	500	25	30	100	1500								

業	工	人	整	他	70	本	業	業	業	品	品	業	業	業	業	業	業	業	業	業
業	工	人	整	他	70	本	業	業	業	品	品	業	業	業	業	業	業	業	業	業
26200	16000	3400	800	6000	15	100	30	200	300	2300	10	26200	16000	3400	800	6000	15	100	30	200



店	公	需			
大	敬	省	654	724	
司	法	省	600	610	
厚	生	省	10	120	
産	輸		30		
真			10	4	
保			486	489	
合	計		53400	51000	

食料塩所要量

年	基本配給	味噌	醤油	漬物	水産加工	加配	その他	計
22年	186,838	92,920	151,086	150,182	137,200	84,000	104,214	892,440
23年	187,999	141,291	200,434	205,673	203,600	38,000	130,112	906,109
24年	141,973	154,043	260,432	270,314	254,300	-	176,160	1,257,222
25年	95,352	174,036	291,508	349,998	319,600	-	222,054	1,468,548

備考 (1) 基本配給 1人1月当り 22年は200g 24年は150g  
25年は100gとした

(2) 加配は 22年 都市人口1人1月 NACL  
23年 は農村人口 NACL

gram 農村人口 1人1日 NACL gram  
gram 攝取可能に於けるため、加配するものとし

用途は、加配の制度考慮するものとした。



その他の用塩・内訳

用途	22年	23年	24年	25年	備考
家畜用	57,704	74,786	108,164	141,214	
塩水選	2,718	8,000	8,500	7,010	
パン・めん類用	8,918	10,800	13,512	16,234	
ソース・食酢用	7,113	10,217	11,710	13,200	
食肉加工用	204	250	500	400	
バター・チーズ等用	418	489	610	700	
ビツ・カン詰用	1,050	1,320	1,590	2,050	
魚板用	1,972	2,100	2,350	2,700	
獣皮用	4,117	4,650	5,424	6,072	
その他の用	15,000	18,000	24,000	30,000	
合計	104,214	130,612	176,160	222,054	

味噌の生産計画と所要量

年度	業種	用	生産計画 千石	倉庫所要量	原單位所要量 (千石)	
					味噌此用	味噌用
昭和二十三年度	業種	用	104,690	60,580	5.5	70
	自家醸	用	58,500	32,340	5.5	
	計		163,490	92,420		
昭和二十三年度	業種	用	154,472	97,772	6.2	70
	自家醸	用	70,180	42,575	6.2	
	計		224,652	140,347		
昭和二十四年度	業種	用	167,932	106,112	6.2	70
	自家醸	用	77,492	47,925	6.2	
	計		245,424	154,037		
昭和	業種	用	188,421	118,562	6.2	70
	計					

昭和三十二年	自家稼取	88,996	15,177	62,819
	計	227,477	18,036	

備考 1. 各年度の農務費用は労務取返、雑費除、食料を信託。

2. 本生産計画は、食糧全般について、この前年の理想計画を前提とした食生活の改善を考慮し、食料生産を主体として、水産物を併せて生産することにより、目標の達成を期すことと目算したものである。

3. 備前、漢物に付しては、別添としてあり。

味 増

年次	消費材料	肥料	画	1人毎の消費量	肥料人口
昭和三十二年	大豆	115,000	104,690	1,800	56,071 <small>人</small> (用家人口)
	米	277,102	58,800	2,700	21,778 <small>人</small>
	麥	165,165	163,490		71,849
	芋	20,000			
昭和三十三年	大豆	182,211	154,428	2,800	56,400 <small>人</small>
	米	227,153	70,125	3,200	21,933 <small>人</small>
	麥	543,825	244,163		72,337
	芋	25,000			

昭和二十四年度	大豆	業務用	167,922	2,700	56,789 (自家用人口)
	米	(自家用)	77,292	3,500	22,085
	麥	計	245,230		78,874
	芋				
昭和二十五年度	大豆	業務用	188,487	3,000	57,211 (自家用人口)
	米	(自家用)	82,996	4,000	22,249
	麥	計	271,483		79,460
	芋				

備考 1. 各年度の所要原料は業務用Kのみ関するものである。  
 2. 所要原料は入手しておく必要し、も確實なものでなければい。

陸海空三産計画と所要量

年度	三産計画		食糧所要量	原單位当
	数量	成		
二十二年	業務用	2,355,200	64,610	穀類 20K 其他 50K 於15歳以上 42K
	自家用	1,131,250	72,139	
	計	2,686,450	13,194	
二十三年	業務用	3,142,756	148,201	
	自家用	571,531	78,835	
	計	5,614,287	93,018	
			16,515	
			159,108	

年次	業務可 自家用計	報 仕入	成 入(元石)	石 125.648	116.473	同上
二十四年	業務用	401.640	5.301.472	144.029		
	自家用計	259.441				
二十五年	業務用	548.784	471.450	23.572		
	自家用計				325.576	

備考 各年度の業務用は労務加配、学童給食及加工用之倉也。

年次	配給計画 (米、麦、大豆)	(円換算) (単位:円)	配給計画 (米、麦、大豆)	人口 総数	配給人口 (自家用人口)
二十二年	業務用	2,263,780	2,263,780	4.0	71,849
	自家用				(自家用人口) 6,577
	計		2,263,780		78,426
二十三年	業務用	3,142,936	3,142,936	4.0	71,697
	自家用				(自家用人口) 6,628
	計		3,142,936		78,325

(2)

税控受(大豆換算)	153,486	業務用	4,123,648	5.4	72,190
醬 麦	108,480	業務用	4,123,648	5.4	72,190
大 豆	64,927	自家用	401,040	6.0	(自家用人口) 6,680
小 豆	10,579	計	4,524,688		78,870
税控受(大豆換算)	191,325	業務用	5,301,472	6.5	92,925
醬 麦	139,851	業務用	5,301,472	6.5	92,925
小 豆	12,528	自家用	471,450	9.0	(自家用人口) 6,935
小 麦	12,439	計	5,772,922		98,860

備考 各年度の所要原材料は業務用にのみ対応するものである。

昭和二十二年一二十五年度漬物用食塩需要見込数量

年 次	播種量	備 考	備 考	備 考	備 考
昭和二十四年 第一四半期	菜 710	梅干漬 1,100 <sup>担</sup>	244,000 <sup>担</sup> (3,660,000 <sup>斤</sup> )	梅干漬 31,139 <sup>人</sup>	
第二四半期	白 600	良菜漬 5,000 <sup>担</sup>	91,000 <sup>担</sup> (1,347,000 <sup>斤</sup> )	一人	
第三四半期	菜 5826	山菜漬 500 <sup>担</sup>	50,000 <sup>担</sup> (850,000 <sup>斤</sup> )	一人	
第四四半期	白 20875	菜類漬漬 3,750 <sup>担</sup>	750,000 <sup>担</sup> (2,1750,000 <sup>斤</sup> )		
	自 99696	瓜茄子漬 2,136 <sup>担</sup>	265,000 <sup>担</sup> (4539,000 <sup>斤</sup> )		
	菜 10,625	菊菜漬 17,875 <sup>担</sup>	2,750,000 <sup>担</sup> (46,750,000 <sup>斤</sup> )		
	白 1	菜類漬漬 2,500 <sup>担</sup>	500,000 <sup>担</sup> (8,500,000 <sup>斤</sup> )		
		菊菜漬 8,125 <sup>担</sup>	1,250,000 <sup>担</sup> (21,250,000 <sup>斤</sup> )		
		菜類漬漬 2,500 <sup>担</sup>	500,000 <sup>担</sup> (8,500,000 <sup>斤</sup> )		

備考  
 播種量 一人  
 31,139<sup>人</sup>  
 一人  
 46,710<sup>人</sup>  
 一人



年度	合 計	梅干項	梅干項 第一一人平均	梅干項 一人平均
昭和二十三年度	合計	444,486	1460"	31,330人
	第一四半期	105,696	637"	2,322班
	第二四半期	338,790	130"	
	第一四半期	2,450	8,000班 (5,000,000)	
	第二四半期	10,000	1,450" (145,000" (3065,000"))	
	第一四半期	2,111	4,375" (895,000" (14895,000"))	
	第二四半期	1	3,736" (467,000" (7,939,000"))	
	第一四半期	24,488	20,313" (3,125,000" (53,125,000"))	梅干項 一人平均 31,330人
	第二四半期	140,999	4,165" (832,000" (4,161,000"))	梅干項 一人平均 31,330人
	第一四半期	13,235	9,750" (1,500,000" (25,500,000"))	梅干項 一人平均 31,330人
	第二四半期	1	3,335" (667,000" (11,339,000"))	梅干項 一人平均 31,330人

年度	合 計	梅干項	梅干項 第一一人平均	梅干項 一人平均
昭和二十三年度	合計	5,507	1284"	31,530人
	第一四半期	150,599	1673"	0.4班
	第二四半期	205,673	863"	
	第一四半期	11,780	9,600班 (7200,000)	梅干項 一人平均 31,530人
	第二四半期	12,600	2,180" (218,000" (3,794,000"))	
	第一四半期	10,649	5,313" (1,062,500" (17,062,500"))	
	第二四半期	1	5,286" (667,000" (11,339,000"))	
	第一四半期	25,675	21,725" (3,373,000" (59,375,000"))	梅干項 一人平均 31,330人
	第二四半期	196,291	3,750" (750,000" (12,750,000"))	梅干項 一人平均 31,330人
	第一四半期	13,319	9,669" (148,750" (2,627,900"))	梅干項 一人平均 31,330人
	第二四半期	1	3,650" (730,000" (12,750,000"))	梅干項 一人平均 31,330人

年 度	合 計	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	年一人平均	1337	梅干漬 産家 一人平均
昭 和 二 十 五 年 度	第一四半期	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	12,000 2,730 6,250 8,000	600,000 293,000 1,250,000 1,000,000	31,770 0.5
	第二四半期	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	24,375 2,335 13,813 4,165	3,750,000 1,067,000 3,750,000 1,667,000	31,770 49,690 2
	第三四半期	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	17,978	3,750,000 1,667,000	
	第四四半期	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	—	—	
合 計	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	61,423 208,891 270,314	—	—	—

昭 和 二 十 五 年 度	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	年一人平均	1907
合 計	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	—	—
	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	—	—
	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	—	—
	業 目	梅干漬 樽産漬 菜類産漬 その他	—	—

備 考

- 〇 梅干漬 樽産漬 菜類産漬 樽産漬 樽産漬 樽産漬
- 〇 山芋漬 〇 〇 〇 〇 〇
- 〇 瓜干漬 〇 〇 〇 〇 〇

合理的な食生活における意味については、殊に栄養的見地から問題があるが、この表においては、現在の漬物不足を是正し、よりよい漬物を作るべきものである。



漁業用塩需要計画

(単位千吨)

昭和22-5-26  
農林省水産局

年次	魚介生産量	用塩				塩		
		内地産物	海水産物	北洋漁業用	其他業用	其他用	外	
昭和22年度	34,300	577	327	337	131	1372		
23	39,700	974	572	323	157	2036		
24	45,000	1492	572	300	199	2523		
25	50,500	2128	572	277	190	3178		
26	56,250	2876	572	277	214	3939		

説明資料 /

(1) 内地漁業魚介類用塩需要量算出の基礎

(単位 千円)

年次	魚介生産目標	食用消費	加工魚介消費	増産費	増産費(%)	増産率	増産効果	増産率(%)
昭和22年度	3,172,500	2,528,000	1,538,000	230,700	15	57,695	1,595,695	15.07
23	3,768,750	2,967,000	1,967,000	393,400	20	98,350	1,573,650	15.923
24	4,232,750	3,387,000	2,387,000	596,750	25	149,188	1,976,350	17.91
25	4,996,250	3,837,000	2,837,000	851,100	30	212,925	1,986,700	19.8
26	5,358,750	4,287,000	3,287,000	1,150,450	35	287,613	2,136,550	21.331

備考 1. 「魚介生産目標」は魚介生産目標から海外漁業の分を差引いたものである。

2. 「食用消費」は「生産目標」の80%とする。

3. 「加工魚介消費見込」は「食用消費」のうち「鮮食」を毎年施設の急増は望めないで1,000,000ととし「食用消費」より之を控除したものの平均食用消費の90.6%である。

4. 加工魚の魚介類は年々増加しているが、加工施設も急増は増加し得ない。

5. 増加の大部分を増産目標として22年度、23年度、24年度、25年度、26年度、その後5%増産を目標として増産目標を算出した。

6. 増産目標の原料は対する割合は25%としたい。

7. 「食用消費」は「加工消費」として「増産目標」を差引いたもの、この消費量は原料に1%としたい。

(ロ) 北洋漁業用増産算出の基礎

年次	増産目標		原料		費用		増産効果	
	トータル	捕獲	トータル	捕獲	トータル	捕獲	トータル	捕獲
昭和22年度	45,000	45,390	5,833	5,833	15,750	15,889	2,041.6	2,041.6
23	45,000	45,390	5,833	5,833	15,750	15,889	2,041.6	2,041.6
24	45,000	45,390	5,833	5,833	15,750	15,889	2,041.6	2,041.6

(単位 千円)

2	45,000	45,390	5,733	75,738	15,750	9,678	20,416	8,594	27,270
2	45,000	45,390	5,833	75,738	15,750	9,678	20,416	8,594	27,270

- 備考 1 塩の原料に付する割合は益受補償費を々々3.5%母船式に10%とする。
- 2 トロール正船の設備の改良も考慮し23年度3.5%、24年度3.0%とする。
- 3 北洋漁業は伊予の他千島及宗谷海峡における漁業に占める生産量64.7%にあり総生産量51.2%に達する。

(ハ) 南水俣捕鯨業用塩算出の基礎

(単位 噸)

年次	船隻数	頭数	塩用原料	塩藏	内	用塩量
昭和22年度	5	2,250	93,330	56,000		32,666
23	6	3,600	163,320	98,000		57,166
24	6	3,600	103,530	98,000		57,166
25	6	3,600	163,320	98,000		57,166
26	6	3,600	163,320	98,000		57,166

備考 1 用塩量は原料の3.5%とした。

資料2

実績より見れば魚介類の生産と塩との関係

(単位 千石)

年次	食料生産量	食用消費 (A)	加工費 (B)	何れも (B)	B/A %	猛如原料 (C)	C/B %	猛須量 (D)	D/B %
昭和11年度	5564.9	2638.6	1730.0	62.2	388	107	55.8	53.3	
12	4974.7	2487.4	1860.0	78.8	385	107	1301	6.7	
14	4709.3	4354.6	1940.0	122	348	129	1749	90	
16	3856.3	1928.3	1390.0	720	561	305	1325	100	
18	3242.8	1621.4	815.0	500	188	25	129.3	15.6	
				47.9		16.2		4.9	

説明資料 3

本計画は、おける糖取量、蛋白質

年次	生産目標 (千石)	同左取量 (千石)	同左蛋白質 (千石)	同左蛋白質 (千石)	同左蛋白質 (千石)	同左蛋白質 (千石)	同左蛋白質 (千石)	同左蛋白質 (千石)
昭和22年度	910,000	341,300	273,000	235,872	77,849	77,849	2,30	2,30
23	1,060,000	397,000	317,600	204,752	72,848	72,848	9.1	9.1
24	1,200,000	450,000	360,000	311,040	78,960	78,960	10.8	10.8
25	1,350,000	505,000	404,000	349,056	79,460	79,460	12.4	12.4
26	1,500,000	562,500	450,000	388,800	80,000	80,000	13.2	13.2

昭和二三～二五年度家畜用糧需要見込量

年度	用途別	対象数量 千頭	年間/頭当 所要量 kg	需要量 kg	対象数量の註明
昭和二三～二五年度	乳牛 (1)	164	25.60	4,100	増産目標を掲ぐ(以下全じ)
	肉牛 (2)	1,873	15.10	28,095	"
	馬 (3)	1,058	8.00	8,304	"
	豚 (4)	162	5.00	810	増産目標数の六割増の頭数を掲ぐ(以下全じ)
	鶏 (5)	202	3.00	606	増産目標を掲ぐ(以下全じ)
	山羊 (6)	240	3.00	720	"
	家兔 (7)	666	0.07	47	増産目標数の三割の頭数を掲ぐ(以下全じ)
	家禽 (8)	21,117	0.70	14,782	鶏及鶩の増産目標数の合算を掲ぐ(以下全じ)

配合飼料(9)	40,000 <small>ト</small> 小増 6.0	200	養鶏用配合飼料のみの数量目標数を以て(以下合計)
計.	-	57,704	
1	170	5,100	
2	1,927	34,686	
3	1,010	10,120	
4	210	1,365	
5	215	562	
6	265	1,193	
7	990	55	
8	23,266	20,939	
9	50,000 <small>ト</small> 小増 6.0	300	
計	-	74,786	

二  
三

1	179	32.00	6,444
2	3,002	25.00	57,050
3	1,061	12.00	12,732
4	277	9.00	2,493
5	235	6.00	1,410
6	295	6.00	1,770
7	869	6.09	61
8	22,370	1.20	32,844
9	60,000 <small>ト</small> 小増 6.0		360
計	-	-	108,164
1	192	36.00	6,912
2	2,099	29.20	61,291



3	1,109	14,160	16,191
4	386	10,995	4,227
5	764	2,330	1,927
6	531	2,550	2,416
7	1,080	6,073	73
8	32,710	146	42,757
9	70,000	1,133	420
計	-	-	141,214

二

五

パン・めん類

品目	22年	23年	24年	25年	備考
乾パン	1,892	2,000	2,200	2,500	0一袋当 110及 0一袋当 85及 0一袋当 (225及) 2倍分
めん類	2,454	220	2,420	2,750	0一袋当 1及 0一袋当 2.5及 0一袋当 4及
未利用資源	1,141	12,000	12,000	12,000	一袋当 352及
余パン	2,357	3,320	5,070	6,760	一袋当 338及
計	8,918	10,200	15,512	16,235	

ソース、ケチヤツポ、食酢

品目	22年		23年		24年		25年		備 考
	生産	値	生産	値	生産	値	生産	値	
ソース	200,000	5,000	300,000	7,500	350,000	400,000	1,400,000	10,000	一石出 通 運 費 計 入
ケチヤツポ	40,000	320	42,000	336	45,000	360	50,000	400	一石出 概
食酢	448,400	17,93	595,200	2,081	650,000	2,600	740,000	2,400	一石出 概
所要通合計	713	21,113	10,217	11,710	13,200				



昭和二十二年度 一・二・三年度 バター・チーズ等用油脂類要見込数量

年度	回次	四半期	製品区分	同上数量	最低標準	要見込数量	備考
昭和二十二年度	I		バター	700,000	20%	14.0	
			チーズ	55,000	15	1.0	
			育児食	3,400,100	5	17.0	
			人造バター	3,196,230	15	48.0	
			計	-	-	80.0	
	II		バター	1,316,000	30	39.0	
			チーズ	80,000	20	1.6	
			育児食	3,400,000	5	17.0	
			人造バター	3,196,230	25	78.0	
			計	-	-	135.6	

昭和二十二年年度

年度	地区	数量	単位	備	備
III	又	1,000,000	30		30.0
	子	20,000	20		1.6
	児	3,400,000	5		17.0
	遊	3,196,230	25		78.0
IV	計	-	-		126.6
	子	170,000	20		10.0
	児	75,000	15		1.0
	遊	2,500,000	5		17.0
合計	人遊	3,196,230	15		48.0
	計	-	-		76.0
	子	3,500,000	-		93.0
	計	300,000	-		5.2
合計	児	13,600,000	-		88.0
	人遊	12,783,000	-		252.0
合計		-	-		418.2

年度	地区	数量	単位	備	備
I	バ	686,000	20		17.0
	子	80,000	15		1.0
	育	3,400,000	5		17.0
	く	3,753,000	15		58.0
II	計	-	-		94.0
	バ	1,012,000	30		48.0
	子	104,000	20		2.0
	育	3,400,000	5		17.0
合計	人遊	3,753,000	25		94.0
	計	-	-		161.0
合計	バ	1,240,000	30		37.0
	子	104,000	20		2.0
合計	自	3,400,000	5		17.0

昭和二十三年度

品名	数量	単価	金額	備考
小麦粉	37,500.000	25	937.500	
食塩	-	-	150.0	
バター	120.000	20	2.400	
子	92.000	15	1.380	
小麦	3,400.000	5	17.000	
人造バター	3,750.000	15	56.250	
計	-	-	870	
バター	4,300.000	-	1140	
子	380.000	-	65	
小麦	13,600.000	-	680	
人造バター	15,000.000	-	300.0	
計	-	-	489.0	

昭和二十四年度

品名	数量	単価	金額	備考
小麦粉	1,033.000	20	20.660	
子	95.000	15	1.425	
小麦	3,400.000	5	17.000	
人造バター	5,000.000	15	75.000	
計	-	-	113.5	
バター	1,910.000	30	57.300	
子	124.000	20	2.480	
小麦	3,400.000	5	17.000	
人造バター	5,000.000	15	75.000	
計	-	-	179.7	
バター	1,476.000	30	44.280	
子	124.000	20	2.480	
小麦	3,400.000	5	17.000	

昭和二十四年度

IV	人造バター	5,000,000	25	125.0
	計	-	-	188.5
IV	バター	738,000	20	15.0
	子	111,000	15	2.0
	育児食	3,400,000	5	17.0
	人造バター	5,000,000	15	75.0
	計	-	-	107.0
合	バター	5,155,000	-	133.5
	子	454,000	-	8.5
	育児食	13,600,000	-	68.0
	人造バター	20,000,000	-	400.0
	計	-	-	610.0

年度	IV	製造区分	同上数	当位 必要量	必要量
I	昭和二十四年度	バター	1,167,000	20	23.0
		子	107,000	15	2.0
		育児食	3,400,000	5	17.0
		人造バター	2,500,000	15	112.5
		計	-	-	154.0
II	昭和二十五年度	バター	2,167,000	30	65.0
		子	140,000	20	5.0
		育児食	3,400,000	5	17.0
		人造バター	2,500,000	15	187.5
		計	-	-	214.5
III	昭和二十五年度	バター	1,669,000	30	64.0
		子	140,000	30	5.0
		育児食	3,400,000	5	17.0
		人造バター	2,500,000	15	112.5
		計	-	-	198.5

昭和二十五年	187.5	28	7,500,000	28	187.5
計	287.5	-	-	-	287.5
昭和二十五年	170	20	800,000	20	170
計	20	15	125,000	15	20
昭和二十五年	170	5	3,000,000	5	170
計	170	15	7,500,000	15	170
昭和二十五年	100	-	5,000,000	-	100
計	100	-	5,000,000	-	100
昭和二十五年	680	-	13,000,000	-	680
計	680	-	13,000,000	-	680
昭和二十五年	200.0	-	30,000,000	-	200.0
計	833.0	-	-	-	833.0

ビシ・カシ結

品名	22年	23年	24年	25年	備考
生産	299,000	350,000	400,000	500,000	一八〇年 塩 2.2割
消費	655	770	880	1,100	
貯蓄	176,500	250,000	300,000	400,000	一八〇年 塩 1.2割
他物	212	300	360	480	
生産	350,000	500,000	700,000	1,000,000	一八〇年 塩 5.0割
消費	180	250	350	500	
貯蓄	1,050	1,320	1,590	2,080	

魚皮処理

品目	22年	23年	24年	25年	備考
大サメ	553,000 生産	600,000 生産	650,000 生産	750,000 生産	一枚当り
	1,106 塩	1,200 塩	1,300 塩	1,500 塩	2 階
小サメ	2,887 生産	3,000 生産	3,500 生産	4,000 生産	一枚当り
	868 塩	900 塩	1,050 塩	1,200 塩	300 頁
所産塩合計	1,972 塩	2,100 塩	2,350 塩	2,700 塩	



昭和二十二年—二十五年度原皮塩蔵用塩需要見込数量

年次	半期別	原皮区介	原皮数量	原皮当塩必要量	塩需要量	備考
昭和二十二年	I	牛	成塊 40,000 35,000	12.5	480.0 437.5	
		馬	皮 25,000	1.0	25.0	
昭和二十三年	I	牛	成塊 60,000 55,000	12.5	750.0 687.5	
		馬	皮 25,000	1.0	25.0	
昭和二十四年	I	牛	成塊 60,000 55,000	12.5	750.0 687.5	
		馬	皮 25,000	1.0	25.0	
昭和二十五年	I	牛	成塊 60,000 55,000	12.5	750.0 687.5	
		馬	皮 25,000	1.0	25.0	
		計			812.5	
		牛			750.0	
		馬			25.0	
		計			125.0	
		計			1,125.0	



年度	类别	原價已分	原價数量	原價必要量	備考
二 年 度	Ⅲ	牛	80,000	5	2,716
		馬	4,000	5	150
		豚	25,000	5	2,000
	Ⅳ	牛	90,000	15	7,000
		馬	4,000	4	160
		豚	25,000	5	2,000
合 計	牛	250,000	-	2,7000	
	馬	100,000	-	690	
	豚	100,000	-	9000	
	計	-	-	4,170	

年度	类别	原價已分	原價数量	原價必要量	備考
昭 和	I	牛	50,000	12	600.0
		馬	4,000	5	20.0
		豚	25,000	10	250.0
	II	牛	70,000	12	840.0
		馬	4,000	5	20.0
		豚	25,000	10	250.0
三	III	牛	90,000	10	900.0
		馬	5,000	5	20.0
		豚	25,000	5	200.0
	計	-	-	1,285.0	

年次	原皮区	原皮数量	原皮重量	原皮数量	原皮重量
IV	牛	70,000	10	700,000	1,260.0
	馬	5,000	4	20,000	
	豚	25,000	8	200,000	
	計	35,000	4	140,000	1,060.0
合	牛	280,000	-	304,000	
	馬	18,000	-	500	
	豚	100,000	-	900,000	
	計	140,000	-	630,000	4,650.0

年次	原皮区	原皮数量	原皮重量	原皮数量	原皮重量
I	牛	60,000	12	720,000	
	馬	5,000	5	25,000	
	豚	25,000	10	250,000	
	計	47,000	5	235,000	1,230.0
II	牛	80,000	12	960,000	
	馬	5,000	5	25,000	
	豚	25,000	10	250,000	
	計	47,000	5	235,000	1,470.0
III	牛	100,000	10	1,000,000	
	馬	5,000	4	20,000	
	豚	25,000	8	200,000	
	計	48,000	4	197,000	

-142-

年度	IV	合計
計	-	14120
牛	10000 5000	5000 2000
馬	25000	2000
豚	48000	1920
計	-	13120
牛	330000 20000	35800 900
馬	100000	9000
豚	190000	8540
計	-	54240

年度	IV	合計
計	-	14120
牛	10000 5000	5000 2000
馬	25000	2000
豚	48000	1920
計	-	13120
牛	330000 20000	35800 900
馬	100000	9000
豚	190000	8540
計	-	54240

年度	IV	合計
計	-	14120
牛	10000 5000	5000 2000
馬	25000	2000
豚	48000	1920
計	-	13120
牛	330000 20000	35800 900
馬	100000	9000
豚	190000	8540
計	-	54240

年 度		計			1,656.0
	IV	牛	或 換	100,000 6,000	1,000.0 24.0
		馬		25,000	200.0
		豚		58,000	232.0
		計		-	1,456.0
	合	牛	或 換	200,000 22,000	4,380.0 98.0
		馬		100,000	900.0
		豚		230,000	1,034.0
	計	計		-	6,392.0